

平河町通信

令和5年
3月1日
第19号
発行
内外政治
研究G
代表 宮田修一

2年目に入った露のウクライナ侵略

包囲されても首都を 離れなかったゼレンスキー

ロシアがウクライナに侵略してから1年が過ぎました。情勢は予断を許しません。ウクライナは大きな犠牲を払いながらも、当初の予想を覆し、西側諸国の支援を受けてロシアを必死に押しとどめています。

侵略の翌月、ロシアは劣勢のウクライナに「非武装化」を要求してきました。しかし、ロシア帝国やソ連による占領支配を何人も強いられたウクライナ国民はこれを一蹴しました。日本国内でも無責任な譲歩を求める論者がいました。が、「停戦」に応じることには侵略を受け入れることではあり、あり得ないことでした。露軍に包囲されても首都を離れなかったゼレンスキー大統領の覚悟が国民の精神を支えて来ました。

見抜かれた中国の 狡猾な停戦仲介

戦況分析は専門家に任せるとして、この戦争で狡猾

のかと思つたら、「一方的な制裁と極端な圧力は新たな問題を生み出す」と牽制しています。

岸田首相は 早くキーウに向かへ！

狡猾な動きを見せているのが中国です。プーチンの敗北でロシアが崩壊して自由主義陣営と単独で向き合うのも困るが、各国の中国離れが進むのも避けたい。そんな思惑からか、ロシアへの武器供与が懸念される中、習近平政権が「仲介役」を名乗り出ました。しかし、「国家主権の尊重」を強調してウクライナに寄り添う

天皇陛下63歳お誕生日 6月にはご成婚30年

天皇陛下は2月23日に63歳の誕生日を迎えられ、誕生日の一般参賀として初めて皇居・宮殿前で国民の祝福を受けられました。



事前の記者会見では、あらためて「(皇室の在り方は)国民の幸せを常に願っている」と述べられました。

6月9日にはご結婚30年を迎えられますが、ご病気の快復途上にある皇后陛下について「できる限り力になり支えていきたい」と話されました。今年が関東大震災100年であることやトルコ南東部震源の地震についても言及されました。

憲法シリーズ(4)

緊急事態条項の中心は 「議員任期延長」

前号で触れたように自民党はたたき台として改憲4項目を掲げています。このうち「自衛隊明記」とともに議論の焦点となっている「緊急事態条項」については、「国会議員の任期延長」が与野党の議論の中心となりつつあります。昨年12月1日の衆院憲法審査会には、衆院法制局が各党の見解を資料として示し、議員の任期延長には、自民、維新、公

明、国民、有志の会が「必要」だとしています。立憲も戦時などに備えて「検討の余地はある」としていますが、ほかに優先課題があるとして慎重です。

1月23日招集の通常国会(6月21日まで)に入ってから立憲が予算案審議中の衆院憲法審査会を拒否し、維新の藤田幹事長が「(立憲との国会共同の)ご破算」を口にする場面もありました。新年度予算の衆院通過を見越して3月2日には再会される見通しですが、立憲は新たに「同性婚」などを審査対象にするよう求めており、議論の進展を遅らせようとしています。

LGBT理解増進法を考える

自民党の稲田朋美衆院議員らが令和3年に与野党でまとめたLGBT理解増進法案には「性的指向及び性自認を理由とする差別は許されない」との表現があり、異論が出て国会提出に至りませんでした。しかし、首相秘書官の「舌禍事件」を受け、再び勢いを増しています。

性自認とは「自己の性についての主観的な認識」です。男性器



産経抄
(令和5年
2月18日)



女性スペースを守る会HP